

第 1 期苫小牧市スポーツ推進計画の総括について

1 計画期間と見直し

- (1) 計画期間 : 平成28年度（2016年度）から令和 7 年度（2025年度）までの10年間
- (2) 中間見直し：令和3年度に改訂版を作成。「障がい者スポーツ」に関する方針、施策及び成果指標・目標数値を追加

2 改訂後（令和3～7年度）の評価（要点）

(1) 概 評

新型コロナウイルス感染症の影響により一部事業の中止・廃止があったものの、全国規模の大会誘致や障がい者スポーツ施策の充実など、第 1 期計画に基づく取組は概ね着実に推進することができた。

一方、市民のスポーツ実施率をはじめとする成果指標はいずれも目標値に達しておらず、引き続きスポーツ実施率の向上や運動習慣の定着などの取組が必要である。

※中止・廃止となった主な事業

- ① 苫小牧市老人クラブ連合会への補助（令和 3～6 年度まで中止。令和 7 年度に再開）
- ② 国際少年アイスホッケー中学生交流会（令和 5 年度で終了）

(2) 主な成果

全国高等学校総合体育大会(ソフトテニス・テニス)や国民スポーツ大会(スケート・アイスホッケー)など全国規模の大会を誘致し、スポーツ都市としての魅力を市内外へ発信することができた。

また、障がい者スポーツ施策の充実など、新たな取組についても推進することができた。

3 第 1 期計画における課題

- (1) 第 1 期計画で設定した 7 つの成果指標と目標数値について、全ての項目において目標を達成することができず、改訂時課題とした事項を改善することができなかった。

⇒ 少子高齢化やライフスタイルの多様化など、スポーツを取り巻く環境の変化を踏まえ、市民ニーズに対応した施策を展開していく必要がある。

- (2) 「既存スポーツ施設の改修」について、総合体育館を始めとする本市のスポーツ施設の半数以上は、建築から30年以上経過しており、老朽化が課題となっている。

⇒ 多くの市民がスポーツに触れる機会を確保するための施設整備、また、全道・全国大会規模のスポーツ大会の誘致やスポーツ観光都市の実現においては、その受入環境としてのスポーツ施設の整備は不可欠であるため、施設の整備を計画的に進める必要がある。